

理事長祝辞



日本大学 理事長

林 真理子

1954（昭和 29）年に、旧制豊山中学校を継承し、日本大学豊山高等学校・中学校が発足してから、本年で 70 周年を迎えました。誠におめでとうございます。この間、多くの苦難を乗り越え、今日の日大豊山に発展させた、歴代の校長、教職員の方々をはじめ関係者各位のご努力・ご尽力に対して、深く敬意を表します。

日本大学豊山高等学校・中学校は、数ある付属高等学校・中学校の中で唯一の男子校で、本学の教育理念である「自主創造」の精神と豊山学園の校訓「強く 正しく 大らかに」を教育方針として、中高一貫の教育が行われています。

都心の中にあっても、学祖山田顕義先生の墓所がある、護国寺の自然豊かな森に隣接し、2015（平成 27）年に建てられた高層の校舎には、充実した施設と設備が整っています。このような恵まれた教育環境のもとで、コース制による生徒の希望と学力、個性に応じたきめ細やかな教育が行われ、多くの優れた生徒を日本大学に送っていただいております。

また、最近の日本大学豊山高等学校・中学校の注目すべき取り組みとして、調理器の施設が備わった家庭科室を設けるなど、男子校だからこそその利点を生かし、男女の画一的な価値観にとらわれないダイバーシティとジェンダーフリーの教育を実践されていることです。これは従来の男子校とは違う先駆的な試みであり、日大豊山の人気を高めている点でもあると思います。

さて、現在日本大学は不祥事に対する改善・改革にさらに取り組むとともに、未来を見据えた諸施策を全力で進めております。皆様方のご理解とご協力・ご支援を賜りたくお願い申し上げます。

最後に、日本大学豊山高等学校・中学校のさらなる発展を心から祈念し、お祝いの言葉といたします。

学長祝辞



日本大学 学長

大貫 進一郎

日本大学豊山高等学校・中学校創設 70 周年、誠におめでとうございます。日本大学の教学部門を代表いたしまして、心よりお祝いを申し上げます。また、この間、時代の変化に対応しながら、校訓である「強く 正しく 大らかに」を体現する心身ともに豊かな人材を育成し、今日の発展を築かれた歴代の校長や教職員、関係者の皆様方のご努力に対して、深く敬意を表します。

日本大学豊山高等学校・中学校は、今年度（令和 6 年度）も 400 名をこえる卒業生を本学にお預けくださっております。私の教え子にも多くの出身者がおり、正課の学びはもとより、研究室の運営、部やサークルでの活動、「ものづくり」や「ことづくり」の諸活動等においてグループの要となっている姿を多くみてまいりました。これは、教育方針のうち、特に 2 つ目にある「知識技能を啓発し ことにあたって協力をおしまないこと」という精神が、卒業生に広く根づいている証だと強く感じております。

私は、学長就任以来、「H 型人材」の育成を掲げてまいりました。COVID-19 の感染拡大により、一時は学校教育においてもコミュニケーションの機会が急激に減少しましたが、Society 5.0 に向かうポスト・コロナの社会にあっては、人と人とを繋ぎ、高度な知見とともに専門分野間の橋渡しをしながらイノベーションを起こせる人材が求められております。その意味で、日本大学豊山高等学校・中学校での学びと経験を胸に本学等でさらに研鑽を深め、社会へと巣立つ卒業生は、校歌の詞にありますように、「朽つるなき真理」とともに「大いなる未来」「新しき世界」を拓く力を有する「日本の希望」であると信じております。そして、そうした人材を、この先も 100 年、200 年と社会に輩出されることを、私は大いに期待しております。

日本大学は、認定こども園から大学院までを有する総合教育機関として、これまで以上に付属校目線の接続教育を展開すべく、新しい教学施策を推し進めております。より強固な連携関係の下に、日本大学豊山高等学校・中学校が教育機関としてさらに大きな存在感を示されることを祈念し、私からのご挨拶とさせていただきます。

We are 日大豊山



日本大学豊山高等学校 教頭

梅田 高司

私たちの豊山学園は日本大学の附属校として七十周年を迎えました。記念すべき年に立ち会えることとなり、豊山とのつながりの深さを改めて感じます。

本校が創設以来大切にしてきたことの一つは「挨拶」です。挨拶ができる人は多くの方から愛され、挨拶は社会生活を営む上でも必要不可欠です。昭和の香りを残した厳しい豊山での生活指導によって、卒業時には大きな声で礼儀正しい挨拶ができるようになります。

また、共学化が進む中で、日本大学附属唯一の男子校である豊山生の強みは、自分の好きなことに全身全霊を傾けられることです。脈々と受け継がれてきた豊山での学びが礎となり、輝かしい未来へとつながっています。大学教授・企業役員・オリンピックなど多方面で活躍する卒業生がそれを物語っています。

創設以来受け継がれて来た伝統を未来の豊山生へつないでいけるよう「We are 日大豊山」を心に刻み、これからも母校と共に歩んでゆきたいと思います。

今までとこれから



日本大学豊山中学校 教頭

原田 学

昭和29年8月に学校法人日本大学が設置する学校に移行してから創設70周年を迎えることになり、この節目に立ち会えたことに喜びを感じております。

学習指導要領は現在8回目の改訂にあたり、ようやく「創造性」の育成が前面に出てきました。しかしながら、学習指導要領の歴史を見ますと、日本の教育は「ゆとり教育」と「詰め込み教育」を行ったり来たりしていることがわかります。そのような中であって、本校は「強く 正しく 大らかに」という校訓のもと、男子校という特色を生かし、一貫して文武両道を目指し、各界において貢献する数多くの同窓生を輩出しています。

本学はいかなる時も時代を認識して未来を見据え、日本大学の建学の精神に基づき、最良の教育を実践し、社会に貢献できる人材の育成に努めてまいります。

伝統校に着任して

豊山高等学校・中学校が創設 70 周年を迎えられたことを心よりお喜び申し上げます。これもひとえに皆様の温かいご支援の賜物と衷心より感謝いたしております。

この栄ある 70 年の歴史と伝統に裏打ちされた本校には令和 6 年 7 月に着任しました。初めて本校を訪れた際、見ず知らずの私に生徒から透き通った声で「こんにちは」と挨拶され、とても新鮮な感銘を受けました。これが長い歴史の中で培ってきた伝統校の良さだと確信しております。

一方、創設 60 周年からの 10 年間は IT 機器やネットワークなどの技術革新によって、私たちを取り巻く生活環境は目覚ましく変化しました。私などの高齢者には厳しい時代となりましたが、生徒たちは果敢に新しい知識や技術を吸収しながら、たくましく今日を生きています。このような彼らの夢や希望を実現できるよう文武両面から応援していく所存ですので、関係各位の皆様には今まで以上のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



日本大学豊山高等学校・中学校
事務長

植草 敦

学校創設 70 周年によせて

豊山高等学校・中学校が創設 70 周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。永きに亘り、変わらぬご厚誼と温かなご支援を賜りました同窓会・育友会・護国寺・近隣等の皆様に、改めて御礼申し上げます。高度成長期に日本大学の付属校となり、バブル期、ネット時代、低成長期など様々な時代を経て今日に至りました。日本大学も含め、社会が大きく揺れ動いた時期もありました。その中で、成長期の生徒を迎える男子校として、校訓である「強く 正しく 大らかに」の基に成長し、巣立った多くの生徒・卒業生を支えた歴代の関係者の方々がこの 70 年の礎です。これから歴史を積み重ねるには、物心ともに変化が求められます。毎年入学し、卒業する生徒の皆さん、そして御父母を始めとする各位の期待に応えられるよう努力を続ける所存です。

改めて関係各位のご支援とご協力に心から感謝申し上げ、本校の発展のために、ご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。



日本大学豊山高等学校・中学校
経理長

宇田川 理

創設 70 周年を祝して

日本大学豊山高等学校・中学校が創設 70 周年を迎えられましたこと、誠におめでとうございます。



日本大学豊山高等学校・中学校
育友会名誉会長

中 義之

新型コロナウイルス感染症が拡大し、世界の政治や経済に深刻な影響を与えた 4 年前、学校生活も大きく変化しました。先生方と生徒たちが日々の変化に対応しながらこの苦難を乗り越えてきたことを垣間見るにつけ、私たちも「豊山生の力」の大きさを実感したことを覚えています。少子化等で学校の存続すら危うく叫ばれる中で、なお憧れをもって「日大豊山」と名を呼ばれる伝統を築いてこられたのは、校長先生をはじめとする歴代の教職員の皆様の深い愛情と情熱。そして豊山生のプライドを持って社会でご活躍する卒業生とご家族の思いの積み重ねだと思えます。

今、親である私たちが元気に「喜寿」や「傘寿」の世代となり、生徒たちの世代が親となって創設 100 周年を祝う。そんな素敵な未来へと新たな伝統を築かれるよう心から期待しております。

70 周年ご挨拶

日本大学豊山高等学校・中学校の創設 70 周年を心よりお慶び申し上げます。育友会会長を拝命し身の引き締まる思いでございます。

日大豊山の生徒は、礼儀正しく、爽やかなイメージがあり、長男の中学受験の際にはまず豊山を推したものでした。中・高六年間を過ごした長男と入れ替わりに次男が入学。彼らが豊山に通う 12 年間は、私自身、子供世代に果たすべき責任を学び、考えさせられた時間でもありました。

コロナ禍の中、生涯の思い出となりえた行事が次々に中止を余儀なくされ、生徒だけでなく、先生方、保護者の誰もが胸を痛め、耐え忍んだことと思います。子供達を守ることを第一に、全身全霊を傾けて頂きましたことに改めて感謝申し上げます。

日大豊山は、多くの出会いと可能性に満ちた学び舎であると思います。「強く 正しく 大らかに」伝統校の誇りを胸に、末永くご発展なさることを御祈念申し上げます。



日本大学豊山高等学校・中学校
育友会会長

溝上 好美

✦ 日本大学豊山高等学校 日本大学豊山中学校 ✦

創設 70 周年によせて

日本大学豊山高等学校・中学校創設 70 周年、心からお慶び申し上げます。

付属校唯一の男子校の特徴をもち、文武両道を実践、素晴らしい発展を遂げており、同窓生としても非常に誇らしく思っております。

時代の変化と共に人々の考え方も変わってきます。学校もその変化にあった対応をせねばなりません。日大豊山の校訓「強く 正しく 大らかに」と「知育・徳育・体育」を基盤とする教育方針は、変えないでほしいものです。学校の評価が高い低いに関係なく、有名私大・国公立大入学を最重要目標としている学校が多いようです。しかし日大豊山は昔から、伸び伸びと楽しい学校生活を送らせてくれました。能力や適性を早い時期から決める必要はありません。将来のある生徒の特色を生かす教育をするのが日大豊山だと思います。

今後の発展を心より祈念しております。



日本大学豊山高等学校
同窓会会長

井上 敦雄

日本大学豊山学園 70 周年を祝す

日本大学の学祖山田顕義が眠る「護国寺」は、五代将軍徳川綱吉が仏教の信仰厚い母、桂昌院の願いにより創建寺院であり、「豊山」の名前は真言宗豊山派に由来しており、120 年程前に僧侶養成の為に創立した中学校を起源とし、戦後の荒廃激動により昭和 27 年日本大学本部直属の単独男子校として再スタートし今日に至っている。

私は昭和 42 年から 6 年間剣道部に所属したが、風紀に厳しい校風で学び、先輩、後輩の上下関係休みなしの日々であった。

衆議院議員や日本大学教授を経験し、間もなく 70 を迎える私にとって掛け替えのない時期であったと振り返ります。

当時、都内では数少ない温水プールやプラネタリウム等設備されていて、池袋より都電（路面電車）で通い、中台グラウンドでの体育祭、千葉九十九里の野栄学寮の合宿等、走馬灯のように浮かんできます。今確かな歩みを続ける豊山、松井校長をはじめ教職員の尽力に敬意を表し、少子化の時代に充実した教育方針が貫かれることに期待致します。



日本大学豊山高等学校
同窓会理事長

石田 勝之

大らかな多様性



日本大学豊山高等学校
生徒会会長

清水 裕太郎

「多様性を受容しよう」と叫ばれて久しい世の中である。多様な生活背景や個性を持つ方の権利も拡大され、様々なバックグラウンドを持つ人たちがその個性を活かし活躍できる社会が実現しようとしている。私は令和6年度高校入学式の生徒会長として行った在校生代表の挨拶の中で、「豊山は自分の個性を発揮できる場所です」と話をした。これはいって本心であり、私のクラスでも様々な個性があふれ、個性のサラダボウルの様相を呈している。まさに多様性、まさに大らか、である。よく豊山生に、「豊山はどんな学校？」と聞くと「大らか」と答える人が多いが、これもまさに豊山における個性ではないだろうか。友達の趣味、特技、なんでも認めあって「大らか」に笑い合う。好きなことを好きと胸を張って言える。そんなあたたかい空間が日大豊山の特徴であると、私は思う。

創設70周年、おめでとうございます。これからも、大らかな学校であらんことを。

70周年おめでとうございます



日本大学豊山中学校
生徒会会長

嶋田 大朗

この度は、日本大学豊山高等学校中学校創設70周年、誠におめでとうございます。

70年という3つの元号を跨ぎ、とても長い時間を過ごしたこの学校のことを私は在校生として誇りに思っています。

今までたくさんの生徒とともに2024年まで歩んできた中で、一人ひとりにどのようなストーリーがあったのでしょうか。私がこの日大豊山で過ごしてきた3年間には数えきれないほどの思い出があります。友達と喧嘩したり成績で悩んだりと思い返せば色々な感情が湧いてきます。そんな歴史ある日大豊山の70周年の節目を中学校生徒会会長として迎えられたことをとても嬉しく思います。またこの先も数十年と日大豊山が発展しつづけるために在校生として、今この瞬間を大切に歩んでいきたいと思います。

最後にこれからの日大豊山の末永い発展を祈念して、中学校生徒会会長の言葉とさせていただきます。



校 歌

日本大学豊山学園校歌

作詞 神保光太郎
作曲 安部 幸明



- 一、朝は呼ぶ大東京の空明けそめて
われら若き桜花日本の希望
大いなる未来をめざし
われらわれらここに競う
輝く母校 輝く輝く母校
- 二、森は呼ぶ歴史も古き豊島ヶ丘よ
われら若き桜花日本の希望
朽つるなき真理をもとめ
われらわれらここに学ぶ
輝く母校 輝く輝く母校
- 三、友は呼ぶ決意は燃えて相寄る魂
われら若き桜花日本の希望
新しき世界をたづね
われらわれらここに進む
輝く母校 輝く輝く母校

旧制豊山中学校々歌

作詞 北原白秋
作曲 山田耕筈

- 一、雲は高し、この森、
我等^{つと}夙^{いさほ}に勢ふ。
三つ柏、豊山中學、
光れ緑、この若萌^{わかもえ}、
若きは剛^{つよ}し、芳^{かんば}し、
慈悲は芽ぐむ閑^{しづ}かに、
閑^{しづ}かに、
我等、我等、學べり。
豊山、豊山、
豊山中學、
我等、我等、學べり。
- 二、禮は正し、この丘、
我等常に思へり。
三つ柏、豊山中學、
そよげ微風^{びふう}、このかがやき
古きはふかし、新^{あらた}し、
志氣^{しき}はあがる朗^{はろ}らかに、
朗^{はろ}らかに、
我等、我等、集^{つと}へり。
豊山、豊山、
豊山中學、
我等、我等、集へり。
- 三、空は遠し、この道、
我等常に畏^{かし}こむ。
三つ柏、豊山中學、
鍛へ、自主、この精神^{せいしん}、
信^{まこと}は清^{すが}し、尊^{たう}し、
徳はつつむゆたかに、
ゆたかに、
我等、我等、競^{きさ}へり。
豊山、豊山、
豊山中學、
我等、我等、競へり。

